

国登録有形文化財・近代化産業遺産

半田赤レンガ建物 (旧カプトビール工場)

はんだあかれんがたてもの (きゅうかふとびーるこうじょう)

明治時代に本格ドイツビールの製造工場として建てられた半田赤レンガ建物。歴史的価値の高い美しい建築物は半田を象徴する観光スポットのひとつ。「カプトビール」の歴史を模型・映像・写真で紹介する常設展示のほか、復刻ビールなどの飲食ができるカフェや半田土産の揃うショップを楽しめる。ハーフティンバー様式の壁面やレンガ造りのレトロな空間は、どこを切り取っても絵になりフォトスポットとしても人気。



レトロな広告塔が目印！

いいかもポイント
ii kamo! Handa



ショップでは、カプトビールや半田赤レンガ建物グッズ、選りすぐりの半田土産が購入できる。



復刻ビールを味わえるカフェ。カプトビールにちなんだイベントや期間限定の企画展なども開催。

かつて名古屋駅前に建っていた、カプトビール広告塔を実寸大で再現。



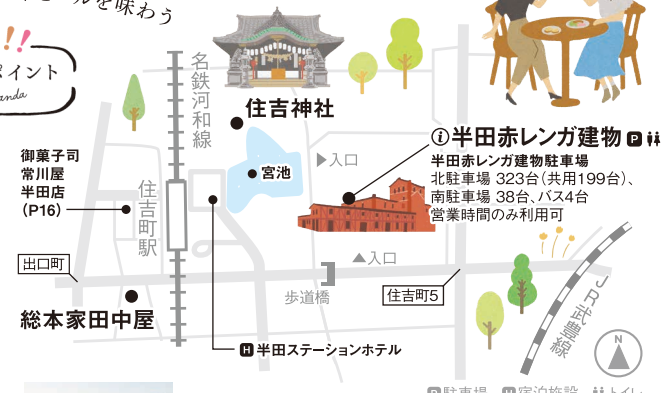
「いいかも! 半田」を合言葉に、新しい魅力が次々と生まれるまち、半田市。醸造蔵の木桶がモチーフのロゴは、まちの歴史と文化から醸しだされる半田の魅力を表現しています。

漆黒の蔵が建ち並ぶ運河に、吹きわたる心地よい風。
半田運河に流れるのは、江戸時代からつづく発酵と醸造のものがたり。
さまざまな醸造品をここから江戸へと送りだしてきました。
なかでも江戸の握りずしブームをつくった「粕酢」は、このまちで生まれた、知恵と工夫のしずく。
当時のゆたかさが生み出した、祭礼の豪華な山車もこのまちの自慢です。
そんな半田市はいま、「発酵と醸造のまち」として食や文化の魅力を発信しています。
新たな風が行き交う半田を、味わい、めぐってみませんか。

発酵と醸造の歴史が醸す、新たな文化とにぎわいのまち

半田の歴史ロマン！
復刻カプトビールを味わう

いいかもポイント
ii kamo! Handa



当時の味わいを楽しめる復刻したカプトビール

昭和18年に生産終了し、幻となっていたカプトビール。文献を基にレシピの再現が進められ、平成17年、ついにカプトビールが復刻！現在は当時の味わいを楽しめるようになりました。歴史ロマンに思いを馳せながら半田醸造のビールを味わってみませんか。



半田土産の定番！
田中屋の生せんべい

総本家田中屋

そうほんけたなやか

モチモチ食感とほのかな甘みが特長の銘菓「生せんべい」。かつて徳川家康が当地に立ち寄った際に食べたという伝承もあり、半田では学校給食にも登場するソウルフード。黒糖・白・抹茶・ゆずの4種類の味わい。



住吉神社前にある宮池(みやいけ)。脇には童話作家・新美南吉がかつて通っていた旧道がある。作品「うた時計」「和太郎さんと牛」に登場し、ほとりには「ひよめのうた」碑が建つ。

奥へと連なる赤い鳥居が印象的な映えスポットも。



住吉神社

すみよしじんじや

山車とちんどう舟を合わせた「ちんどう祭」(P12)が行なわれる上半田地区の氏神様。授与所にはユーモラスな表情の絵馬や御神札絵(おふだえ)、お守りが並ぶ。



絵馬(左)と、「ちんどう舟」のデザインがかわい交通安全お守り(右)。

半田赤レンガ建物から半田を象徴する発酵と醸造の歴史探索へ。
美しい建築遺産と復刻したカプトビールの歩みを辿って。

半田赤レンガエリア

まずはここから。半田観光の玄関口！

ii kamo! Handa
Handa akarenga

ページ掲載情報をさらに詳しくご紹介！
WEBサイト
「半田市観光ガイド」
▶半田赤レンガエリア



いいかもポイント
ii kamo! Handa

「いいかもポイント」は半田観光のおすすめポイントをピックアップしています。



半田市の見どころ

4つの観光エリアと歴史ある祭り文化

Handa City

童話の世界へ 南吉の里エリア P10

懐かしくて新しい 亀崎エリア P08

レトロでモダンな 半田赤レンガエリア P03

醸造と蔵のまち 半田運河エリア P04

伝統を受け継ぐ 山車のまち半田 P07



市内全10地区で合計31輛の山車を所有し、祭り文化を守り継ぐ半田市。その多さと豪華さは全国的にも希少。